

令和6年度（2024年度）第1回 豊中市食育推進部会議事録

1. 日 時：令和7年（2025年）2月14日（金）14時30分～15時40分

2. 場 所：豊中市立地域共生センター 会議室3（オンライン併用会議）

3. 案 件

（1）豊中市健康づくり・食育推進計画の食育における進捗状況について

4. 出席者（敬称略）

（1）委員（名簿順）：11名（委員数12名）

- ・江上 ひとみ（梅花女子大学）
- ・林 宏一（武庫川女子大学）
- ・笹部 努（（一社）豊中市歯科医師会）
- ・濱中 力（（一社）豊中市薬剤師会）
- ・田中 隆介（（一財）豊中こども財団）
- ・前田 雄治（豊中老人クラブ連合会）
- ・小池 由久（豊中商工会議所）
- ・片岡 伸元（豊中市PTA連合協議会）
- ・西村 裕（とよなか市民環境会議アジェンダ21）
- ・中川 敏志（市民）
- ・濱田 恭介（市民）

（2）傍聴者：0名

議事概要

○開会 14時30分

■副部会長の指名について

【部会長の指名により、副部会長は辻 毅嗣委員に決定。】

■案件（１）豊中市健康づくり・食育推進計画の食育における進捗状況について

【事務局から資料１、資料２を用いて説明】

【質疑応答】

委員	前計画の評価について、△や×の部分について、原因の振り返りなど分析調査をして改善策を進めているのか。KPI の項目はどうなっているのか。
事務局	低栄養傾向の高齢者の割合については、前期高齢者、後期高齢者ともに 2011 年から 2016 年にかけて改善していたが、2022 年は前期高齢者では 2011 年以上に悪化、後期高齢者では 2011 年の数値に戻っていた。 また、朝食欠食と主食・主菜・副菜のそろった食事を摂っている人、塩分を控えた食事を心がけている人について、第 3 期豊中市食育推進計画は 2018 年策定のため、資料に 2011 年の数値は入っていない。過去のアンケート結果より 2011 年からの推移をみたところ、全体的に一旦 2011 年から 2016 年にかけて改善し、2022 年に悪化していた。どちらもコロナ禍の影響によるものと考えている。 アンケートには、生活の中で優先していることを 3 つ選択する設問があり、その選択肢の一つである「健康」を選択した人は、朝食や主食・主菜・副菜、塩分について望ましい回答をしていた。2016 年に比べて 2022 年では「健康」を選択した人が 10%程度少なくなっていた。5 年間で生活の中で優先するものが変化したと考えている。 これらを受けて野菜摂取、減塩やフレイル予防について取り組んでいるところである。
委員	資料 1 の評価の表は前計画の評価で、現計画はこの評価を踏まえて策定、推進しているという解釈でよろしいか。
事務局	その通り。○が 2016 年よりも悪化したものの 2011 年より改善したもの、△が 5 %未満の悪化、×が 5%以上悪化したものを示している。
委員	世間にはありとあらゆる健康に関する情報があり、健康寿命を延ばすには何を食べたらいいか難しい。今回は野菜と減塩に取り組んでいるが、この 2 つを選んだ理由は何か。

事務局	野菜については、国の調査で野菜摂取量が年々減少傾向にあること、豊中市のアンケート結果で主食・主菜・副菜のそろった食事を摂っている人が減少していたことから、豊中市民も野菜がとれていないと考え、取り組んでいる。減塩については、国の調査で近年は食塩摂取量が横ばいで目標値に届いていないこと、豊中市のアンケート結果で減塩を心がけている人が減っていることから取組みをすすめていく必要があると考えている。
委員	健康寿命について、国の定義で策定しているが、今後介護の担い手がいなくなるということを意識して、国の定義と要介護であれば健康でないとしている民間の定義を両方記載することはできないか。 本質的には、これからの社会で生涯現役で自立していることが目指すべき姿ではないか。
事務局	全年代の健康づくりと同時に介護予防事業としてフレイル対策や早期からの自立支援として一般高齢者が参加できる通いの場、要支援1,2が対象の体操教室といった要介護にならない事業を展開しているところ。
事務局	国定義の健康寿命は市町村単位では算出できない。市町村で算出するときは、要介護2以上を不健康、それ以外を健康とした方法を用い計画に掲載しており、ご理解いただきたい。
委員	学校給食の残飯がどれくらいあるのか。目標値や現場の負担にならない程度で時系列で把握するロジックがあるとよい。
事務局	学校の計画でも目標を立てるよう推進している段階。残菜などの目標値、残菜を減らしていくという観点を学校に持ってもらえるよう、順次学校に指導していく。
委員	分野別取組みでたばこやアルコール・薬物があるが、それ以上にインターネットやSNSの方が青少年に対してこころの健康や睡眠不足に大きく関わっているように感じている。インターネットやSNSについて、1つの分野にする、こころの健康に取り入れて対策をする方がいいのではないか。
事務局	保健所の精神保健部門が「豊中市メンタルヘルス計画」を策定し、市役所や市の関係機関とともに推進している。特に子どものメンタルヘルス対策を重点的にインターネットやスマホ依存等の市民向け講演会や学校職員向けの研修も行っている。
委員	豊中には長く住んでいるが、豊中市健康づくり・食育推進計画は初めて見た。この計画に限らず、市には多くの計画があり、市民に伝わることは非常に難しいことだと実感している。PDCAを回して、計画の周知をしますとなっているが、市民に伝わらないというところが効果に反映さ

	れないところではないか。他の自治体の事例を参考に効率よく効果が出る周知の方法や健康にプラスの影響があることを重点的に行う方が効果があるのではないか。
事務局	市民の行動変容を促すことは長年の課題で取り組んでいるところ。働く世代に関しては SNS や Yahoo! 広告での情報発信、親子参加のイベントを実施し、狙っているターゲットに行動変容を促している。他自治体の事例も同様。今後も他自治体の事例は参考にする。PTA で発信できる機会があれば教えていただけるとありがたい。
委員	こちらも同じ悩みがあり、周知は永遠の課題と思う。クールビズやレジ袋有料化のように誰もが認知している活動に変わると社会的にも変わってくるのかと思う。
委員	大人を変えるのに子どもから変えるのが近道と思う。大人に周知するのも大事だが、子どもに周知して、そこから口コミで大人を巻き込むのも 1 つの手。今後のこども園の直接的な取組みや就学前施設を巻き込んだ取組みの予定や方向性があれば教えてほしい。なければ協力させていただくのでぜひ検討していただきたい。
事務局	母子保健を担当するおやこ保健課では、幼児食の講習会など、林部会長にご協力いただいたこともある。子どもを持つと食生活を見直すきっかけになる。健康づくり関係も親子参加を意識して事業を展開しているので参考にする。
委員	独居老人が増えてきており、1 人になると食事に気を使わなくなる。野菜摂取の問題について、物価高騰で 1 人 350 g 摂取することが難しい。そういった観点から、高齢者も含めて以前も提案したが、家庭菜園を推進するのはどうか。高齢者の生きがいにもつながる。 健康寿命を延ばすために、生きがいにつながる総合的な取組みをしていくことが必要ではないか。食事と対外的なことをリンクしながら目的の健康寿命を延ばしてくという方向性が大事ではないか。
委員	とよっぴーと出会うまでは、野菜より肉の方が好きだったが、畑で野菜を作るといつの間にか野菜が好きになってくる。美味しく食べたいと思うようになる。
事務局	とよっぴーの活動といった取組みは他部局との取組みと連携しながら健康づくり計画として行っている。このような取組みを総合的に進めて健康寿命延伸につなげる。総合的な計画になるので細部だけを見ると全体が見えにくくなるが、計画の進捗は総合的に進め、来年度からは各事業の進捗状況と評価を行い、さらなる改善を各部署とも確認しながら進めていく。

委員	要望として、ベジチェックを老人会で実施してほしい。
事務局	承知した。
委員	こども園、小中学校、高校で保健所からもらったパンフレットを配ったりしている。子どもを巻き込むのはいいこと。薬剤師会では薬物乱用防止の話を小中学校で実施しているが、子どもが保護者にたばこやお酒がだめと伝えていると聞く。小さい子を巻き込むのは有効。
委員	家庭菜園の意見について、過去の部会で医師会からも提案があった。大変にいい案だと思う。食育だけでは難しいが、社会的なつながりがあって生きる目標ができると健康寿命も延びる。働くということが健康になる秘訣だと思う。
会長	本日の意見については、保健医療審議会に部会長から報告させていただく。報告する内容については、部会長の一任とさせていただいてよろしいか。
一同	異議なし（承諾）

■その他

事務局	KPI について、健康づくり・食育推進計画の 99 頁から数値目標を掲載している。PDCA を回しながら、中間評価、次期計画の策定の際に評価を行う。 食育推進部会では、同計画の栄養・食生活について議論いただく場である。同計画の 123 頁からは全庁的に取り組んでいる事業の一覧があり、128 頁、129 頁にとよっぴーや花と緑のネットワークとよなかの取組みも記載されているので参考にしていきたい。 本日は野菜摂取量測定会、塩分のアンケートを中心に紹介したが、ほかに高齢者の低栄養予防のフレイル栄養相談会も実施している。次年度以降の部会で紹介したい。
-----	---

○閉会 15時40分